

キチジ

Sebastolobus macrochir

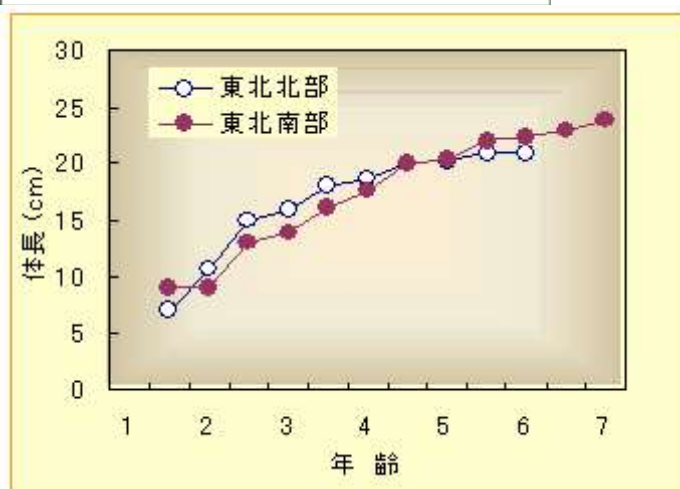
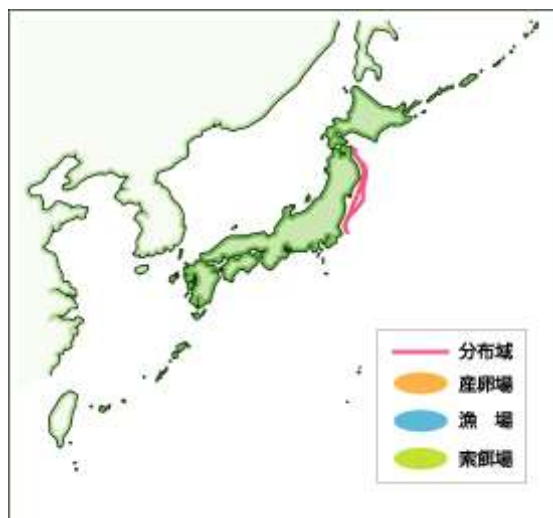
太平洋北系群

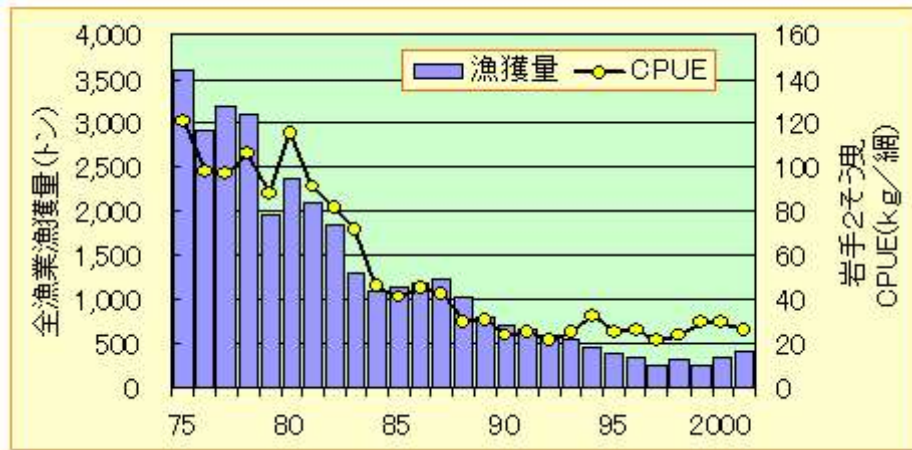
担当：東北区水産研究所



生物学的特性

- 寿命： 30歳程度
成熟開始年齢： 4歳（北部）、3歳（南部）
産卵期・産卵場： 1～4月
索餌期・索餌場： 周年、水深350～1,300mの深海域
食性： エビ類、オキアミ類、端脚類、クモヒトデ類
捕食者： 不明



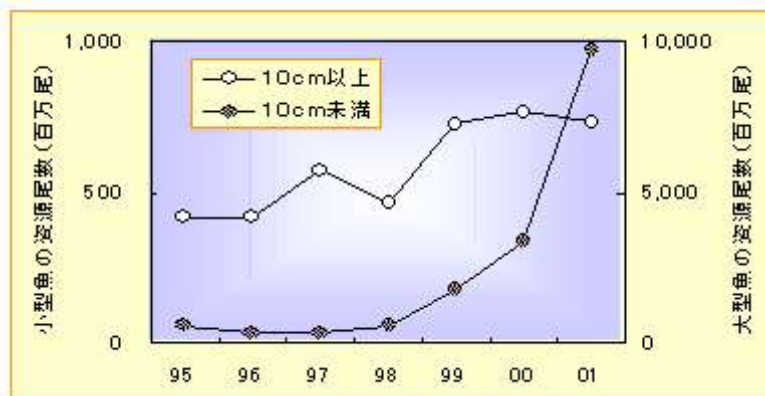


漁業の特徴

沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業、底延縄、底刺網で漁獲されるが、現在は沖合底びき網漁業による漁獲がほとんどである。沖合底びき網漁業の漁期は禁漁期を除く9～6月の周年である。近年の資源状態の悪化により、採算的な面から狙い操業は少なくなっていると考えられるが、混獲により漁獲されるため、キチジが入網した網数は依然として高い値となっている。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業の漁獲量をみると、1970年代には2,000トン前後と高い漁獲量を維持していたが、その後、減少傾向を示し、1997年には過去最低の229トンとなった。2001年には沖合底びき網漁業で319トン、小型底びき網漁業で18トンの水揚げがあり、全漁業種類合計で414トンの水揚げがみられた。



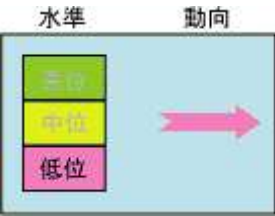
資源評価法

秋季に東北海域全域でトロール網による底魚類資源量調査を実施し（水深150～900m、計71地点）、面積－密度法により資源量を推定した。また、トロール調査と曳航式深海ビデオカメラの比較試験の結果から、トロール網の身網による採集効率（網の

前にいた魚の何割が網にはいるのかを示す係数)を0.3とした。さらに、自然死亡係数および漁獲死亡係数を用い、得られた秋季の資源量より翌年1月の資源量を推定した。

資源状態

2002年の資源量は8,090トンと2001年より若干増加し、資源量は2000年以降3年続けて増加した。このように短期的には資源量の増加がみられるが、長期的にみれば漁獲量は極めて少なく、資源量は低い水準で横ばいにあると推測される。底魚類資源量調査で得られた体長組成の変化によれば、1999～2001年は1998年以前と比較して1歳魚と推定される体長10cm以下の個体が増加しており、1999～2001年の加入量は増加したと考えられる。



管理方策

漁獲物には体長15cm以下の小型個体が多く含まれている。漁獲を控えることにより1999年以降に発生した小型魚の漁獲を制限し、徐々に資源を回復させることを管理目標とした。現在の漁獲係数Fを8割に削減し、この時の漁獲量をABCとして算出した。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.8 Fcurrent	350	4.3%	0.045
A B C target	0.8 0.8 Fcurrent	280	3.4%	0.036

F値は各年齢の単純平均

漁獲割合 = ABC / 資源重量

ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 親子関係は不明であるが、1999～2001年には大きな年級群が出現している
- 1999～2001年に出現した大きな年級群により、資源量は短期的にはやや増加傾向にある

管理方策のまとめ

- 資源回復のためには、現状の漁獲水準の引き下げが必要
- 体長10cm以下の若齢魚を保護していくことが資源管理の上で重要